

東地申第1号

8月3日 第1回交渉—その2

「JR東労組東京地本第34回定期大会発言」に基づく申し入れ

2. 鉄道事業本来の安全風土確立のために鉄道業の職務に集中し専念できる職場環境と体制を整えること。また、再発防止の観点から、安全情報等については、当初の目的を貫徹させるため、起きた事故・事象について背後要因を含め、全系統が自分の業務に置き換え議論できる内容とし、懲罰的な対応と対策によって隠蔽体質が蔓延しないよう予防安全に努めること。

会社回答 自支社及び他支社で発生した事故等を「他山の石」として自分自身や自職場に置き換えて考え、具体的な行動を行うことが事故防止につながることから、必要な情報を「安全情報」として速やかに関係箇所に発信している。

鉄道業の職務に集中し専念できる職場環境と体制を整えるために、
三大繁忙期間くらいは、会社としてマイプロ・委員会活動を止めようと呼びかけるべきだ！

これに対し会社は・・・考え方が合わない

まさかの繁忙期間中でさえも、会社と認識が合わず！



組合 1月9日、池袋駅構内で発生した待避遅延に対し訓告と夏季手当カットの処分を出したが、これは触車事故防止が浸透していないマネジメントの問題である。懲罰的対応と対策を是正し、処分の撤回を求める。このままでは処分を恐れて何も言えなくなる隠蔽体質に陥り、事故は無くなっていかない。

会社 懲罰的な対応を取っているつもりはない。隠蔽体質にならないために、正しく報告する文化をつくってきた。会社として、背後要因を含めて原因究明するスタンスは変わらない。一方で起こした責任もあるが、大事なことは、懲戒は過去に起こったことに対してのものであり、今後の社員育成にどうつなげていくかである。

今回は処分を出していけない事象だ！私たちの主張は間違っていない！処分は許せない！
誰が責任を持つべきものだったのか、会社のマネジメントがどうなっているのかを問う！

組合 安全情報等については、サービスが安全を超えてはならない考えから、安全企画室とサービス品質改革室が独立した経過を踏まえ、本来の趣旨に立ち戻るべきだ。現在の安全情報等は、起きた事象がストレートに伝わらない表題にして事故を軽く見せようとしているのではないか。

会社 軽く見せることはない。発生したものを簡潔に写真や図を入れて、他系統でも分かりやすく活用できることをめざし、すぐに情報を出している。

運転コンクールで、車掌の基本動作の審査を営業列車を使用して行うことは中止すべきだ！

その根拠は、基本動作は事故防止のために行うものであり、競ったり評価したり、見せるものでない。また、営業列車で行うことは、いつも違う環境下で違う緊張感とリスクを背負い、不安全につながるからだ。

会社回答 車掌の技能向上を目的としており、基本動作を審査するものでない。内容については、一部基本動作は見るが車内放送・各駅の状況を踏まえた取り扱い・空調管理ができていくかを見ていく。点数や進め方については、指導担当の意見を踏まえて行いたい。優劣を競うものでなく技能向上とすることで安全・サービス向上につながり、他の乗務員のモデルとしていきたい。営業列車で安全が損なわれることがあってはならない。通常どおりやってもらう。

第2項で確認したこと

- ① 鉄道業の職務に集中し専念できる職場環境と体制を整えるために、三大繁忙期間くらいはマイプロ・委員会活動の中止を呼びかけるべきだが、会社は中止する考えはない。
- ② 池袋駅構内での待避遅延による処分は懲罰的処分であり、絶対に認められない。撤回すべきだ！
- ③ 会社は、再発防止のための安全情報を、当初の目的である系統を超えて「他山の石」として使えるように活用していくと言うが、組合は起きた事象がストレートに伝わっていない認識だ。再発防止に向けて、ルールの見直しを全系統で行うことを要請する。

第2項は途中で終了

東京地本は、人間尊重、安全・現場第一の健全な職場の構築に向けて
全力で団体交渉に臨んでいきます！